

特別支援学級には、同じ障害種で異学年の児童生徒が複数在籍する学級が多くあります。異学年複数在籍の場合には、授業展開の工夫が必要となります。今回、久里小学校の岡本教諭の実践から、特別支援学級における国語科の授業について紹介します。

唐津市立久里小学校

特別支援学級における授業展開をスムーズに行うための工夫

国語：言葉の使い方（「同じぶぶんをもつかん字【2年】」「こそあど言葉を使いこなそう【3年】」「つなぎ言葉のはたらきを知ろう【4年】」「同じ読み方の感じ【5年】」 岡本 祥子 教諭



【授業の概要】

異学年集団による国語科の授業では、はじめに、児童はそれぞれ個別の学習スペースでめあてと活動を確認し、自ら学習を進めていきます。一人一人に応じた課題を進めていく中で、教師は児童の学習状況や様子に合わせて、必要に応じてヒントを与えたり、できたことをすぐに称賛したりしています。また、児童の実態に応じてワークシートを作成したり、付箋を使って表にまとめたりするなどの工夫を行っています。

授業展開のポイント！

学年ごとに席を分け、直接指導（教師から直接指導を受ける場面）と間接指導（児童生徒が主体的に学習する場面）を交互に実施しています。



教師の動き

1年生 (A)	1年生 (B)	3年生 (C)	1年生 (A・B)	3年生 (C)
直接指導	間接指導	間接指導	直接指導	間接指導
間接指導	直接指導	直接指導	間接指導	直接指導
直接指導	間接指導	間接指導	直接指導	間接指導
間接指導	直接指導	直接指導	間接指導	直接指導
	間接指導	間接指導		
	振り返り			

【直接指導】障害の状態、理解の状況に応じた学習内容の**変更・調整**を行います。

基礎的・基本的な学習内容を確実に習得させる視点から指導内容を適切に設定するなど、**効果的に指導する必要**があります。

【間接指導】児童の実態や理解の状況に応じた手立てや課題を設定します。

・意欲的に取り組める内容 ・一人で取り組める内容 ・自己肯定感、達成感が高まる内容 など

詳しくは…

【研修資料2】「特別支援学級での授業展開について」より
・児童の実態に応じて、様々な手立てが紹介されています。 →

